

## V 研究環境

### 1 専任教員の教育研究実績（表24） 省略

- [注] 1 「IV 1 全学の教員組織」（表19）に記載の学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 教員の配列は、「IV 2 専任教員個別表」（表20）の順序に拠ってください。
- 4 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 5 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
  - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
  - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
  - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。
  - ⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについては（表25）に従って作成してください。このほか、専門分野の特性を考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合はこれに含めても結構です。

### 2 専任教員の教育研究実績（芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員）（表25） 省略

### 3 専任教員の研究費（実績）

（表29）

学部・研究科等	総額（A）	総額（B） （除、講座・研究室 等の共同研究費）	専任教員数 （C）	教員1人 当たりの額 ①（A/C）	教員1人 当たりの額 ②（B/C）	備考
総合福祉学部	22,709,549	24,795,000	59	384,908	420,254	
看護学部	6,614,742	6,614,742	21	314,988	314,988	
国際コミュニケーション学部	15,504,254	15,504,254	53	292,533	292,533	
計	44,828,545	46,913,996	133	337,057	352,737	

- [注] 1 2008年度の実績をもとに作表してください。したがって「専任教員数」欄にも、2008年度の人数（助手を除く）を記入してください。
- 2 研究費総額（A）には、学科、研究室等ごとに支給される研究費も含めて記入してください。ただし、間接経費（水道光熱費、人件費等）は除いてください。また、競争的な研究費も含めないでください。
- 3 研究費総額（B）には、講座研究費、個人研究費等の名称は問わず、教員個人が専らその研究の用に充てるために支給される経常的経費（図書購入費、機器備品費、研究用消耗品費、アルバイトなどへの謝金等）を記入してください。
- 4 本表における専任教員数は、（表34）と一致します。

4 専任教員の研究旅費

(表30)

学部・研究科等		国外留学		国内留学		学会等出張旅費		備 考
		長期	短期	長期	短期	国外	国内	
総合福祉学部	総 額	0	0	369,580	0	1,845,091	3,755,959	専任教員数 59人
	支 給 件 数	0	0	1	0	9	40	
看護学部	総 額	0	0	0	0	295,200	1,375,043	専任教員数 21人
	支 給 件 数	0	0	0	0	2	80	
国際コミュニケーション学部	総 額	0	0	0	0	4,852,913	3,829,278	専任教員数 53人
	支 給 件 数	0	0	0	0	31	131	
計	総 額	0	0	369,580	0	6,993,204	8,960,280	
	支 給 件 数	0	0	1	0	42	251	

[注] 1 2008年度の実績をもとに作表してください。

2 教員研究旅費には、前表「3 専任教員の研究費（実績）」（表29）は含めないでください。

3 それぞれの研究旅費の支給条件（例えば、受給資格、支給額の上限等）を備考欄に注記してください。

4 留学の「長期」とは、1年以上のものをいい、1年未満を「短期」とします。

5 学内共同研究費

(表31)

大学・学部・大学院研究科等	総 額	利用件数	備 考
総合福祉学部	1,500,000	1	
看護学部	0	0	
国際コミュニケーション学部	3,521,244	4	
計	5,021,244	5	

[注] 1 2008年度の実績を記入してください。

2 ここでいう「学内共同研究費」とは、予算上措置されている研究費で、個人研究・共同研究を問わず、申請に基づき審査を経て交付される競争的な研究費（いわゆる学内科研費）を指します。

3 研究費に旅費が含まれている場合、これを除く必要はありません。

4 総額の合計は、教員研究費内訳（表32）中の学内共同研究費の合計と一致します。

付表5 淑徳大学学術研究助成費等

(1) 千葉キャンパス

学術研究助成費

年度	氏名	テーマ	金額 (千円)
18年度	時井 聰	新しい社会研修 (インターンシップ) プログラムの作成に関する研究—社会研修 (インターンシップ) の現状および課題整理に基づいて—	720
〃	磯岡 哲也	本学総合福祉学部における導入・修学基礎教育充実のための基礎的データの収集および分析	720
〃	小木曾 宏	新たな社会福祉士受験対策プログラム開発	700
19年度	戸塚 法子	学生の多様な個性と能力を尊重した、「福祉実践 e - 教育」に関する教育手法の開発—「開発型教育」への転換期における“演習教育”の導き方—	900
〃	松藪 祐子	地域社会におけるソーシャルキャピタルの活性化—寺と地域社会—	870
〃	占部 慎一	基礎演習教授例の財産化・共有化に関する研究	900
20年度	該当者なし		

研究叢書出版助成費

年度	氏名	テーマ	金額 (千円)
18年度	川瀬 良美	月経の研究—女性発達心理学の立場から—	1,498
〃	小川 恵	心理臨床へのまなざし—経験の意味を支えるコンテキストと理念—	1,499
〃	田宮 仁	「ビハラー」の提唱と展開	1,499
〃	占部 慎一	子どもたちの逸脱・非行—生き方のパラダイム変化と文化的北分化の視座から—	1,499
19年度	柏女 霊峰	子ども家庭福祉サービス供給体制—切れ目のない支援をめざして—	1,500
〃	松田 博雄	子ども虐待—多職種専門家チームによる取り組み—	1,499
20年度	木村 登紀子	つながりあう「いのち」の心理臨床—患者と家族の理解とケアのために—	1,500

海外研究及び国内研究・調査等

年度	氏名	テーマ	金額 (千円)
18年度	該当者なし		
19年度	該当者なし		
20年度	榎潟 俊子	ローカルフードシステム・食育に関わる環境倫理・価値に関する研究 (東京大学大学院)	587

## (2) みずほ台キャンパス

## 学術研究助成費

年度	氏名	テーマ	金額 (千円)
18年度	岩村 沢也 (清水・米村・山口)	長野県北部の農業の「第6次産業」・環境(景観修景・観光化)・中山間村の福祉の効率化を通しての内発的発展の可能性と問題点ー長野県長野市松代・小布施町・栄村の比較事例研究	633
〃	工藤 久嗣	公的年金基金会計の国際比較Ⅱ ーカナダ・オーストラリアを中心としてー	450
〃	松原 健司	食生活から考える持続可能な社会のあり方	682
19年度	赤崎 美砂	留学成果の分析：日本人成人の場合	684
〃	工藤 久嗣	公的年金基金会計の国際比較Ⅲ ーニュージーランド・スウェーデンを中心としてー	500
〃	永江 総宜 (佐藤・横山・駒崎・白寄)	大学生のキャリア開発教育プログラムの研究	1,830
20年度	工藤 久嗣	退職後給付制度の会計基準 ーカナダ・ニュージーランドを中心としてー	600
〃	高橋 多喜子	音楽教育における療法的アプローチ ーラテン音楽をモチーフにした場合ー	1,000

## 学術奨励研究助成費

年度	氏名	テーマ	金額 (千円)
18年度	齊藤 鉄也	高齢者のライフスタイルにおける情報通信技術に対するニーズ調査	480
〃	藤森 雄介	臨済宗・黄檗宗における社会福祉事業実践に関する実態調査	781
〃	米村 美奈	わが国現代の高等教育機関におけるソーシャルワーク支援の教育的有効性に関する実証的研究ー大学を中心としてー	585
19年度	山口 光治	高齢者虐待防止のための予防プログラムの検証	602
20年度	藤森 雄介	戦後社会福祉施設の設立及び展開過程に関する事例的研究	635

## 学術出版助成費

年度	氏名	テーマ	金額 (千円)
18年度	高橋 弘	ユタ州の開拓と発展 (仮題)	1,386
19年度	葉山 彩蘭	企業市民モデルの構築 (仮題)	1,384
20年度	山口 光治	高齢者虐待とソーシャルワーク (仮題) ー予防とエンパワメントの視点からー	1,413

## 6 教員研究費内訳

(表32)

学部・研究科等	研究費の内訳	2006年度		2007年度		2008年度		
		研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	
総合福祉学部	研究費総額	37,757,601	100.0%	35,406,150	100.0%	26,109,549	100.0%	
	学内	経常研究費 (教員当り積算校費総額)	27,101,671	71.80%	25,215,184	71.20%	22,709,549	87.00%
		学内共同研究費	8,055,930	21.30%	4,774,576	13.50%	1,500,000	5.70%
		その他						
	学外	科学研究費補助金	2,600,000	6.90%	3,490,000	9.90%	1,900,000	7.30%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金						
		民間の研究助成財団等からの研究助成金						
		奨学寄附金						
		受託研究費			1,926,390	5.40%		
		共同研究費						
その他								

学部・研究科等	研究費の内訳	2006年度		2007年度		2008年度		
		研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	
看護学部	研究費総額	-	100.0%	7,073,540	100.0%	14,774,985	100.0%	
	学内	経常研究費 (教員当り積算校費総額)	-	-	4,473,540	63.2%	8,284,985	56.1%
		学内共同研究費	-	-	-	-	-	-
		その他	-	-	-	-	-	-
	学外	科学研究費補助金	-	-	2,600,000	36.8%	4,990,000	33.8%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	-	-	-	-	-	-
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	-	-	-	-	1,500,000	10.2%
		奨学寄附金	-	-	-	-	-	-
		受託研究費	-	-	-	-	-	-
		共同研究費	-	-	-	-	-	-
その他		-	-	-	-	-	-	

学部・研究科等	研究費の内訳		2006年度		2007年度		2008年度	
			研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)
国際コミュニケーション学部	研究費総額		28,799,405	100.0%	30,725,439	100.0%	28,119,489	100.0%
	学内	経常研究費 (教員当り積算校費総額)	21,687,066	75.3%	22,665,201	73.8%	22,298,245	79.3%
		学内共同研究費	4,412,339	15.3%	4,360,238	14.2%	3,521,244	12.5%
		その他						
	学外	科学研究費補助金	2,700,000	9.4%	3,700,000	12.0%	2,300,000	8.2%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金						
		民間の研究助成財団等からの研究助成金						
		奨学寄附金						
		受託研究費						
		共同研究費						
その他								

学部・研究科等	研究費の内訳		2006年度		2007年度		2008年度	
			研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)	研究費 (円)	研究費総額に対する割合 (%)
総合福祉研究科	研究費総額		5,199,168	100.0%	0	100.0%	0	100.0%
	学内	経常研究費 (教員当り積算校費総額)						
		学内共同研究費	5,199,168	100.00%				
		その他						
	学外	科学研究費補助金						
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金						
		民間の研究助成財団等からの研究助成金						
		奨学寄附金						
		受託研究費						
		共同研究費						
その他								

国際経営・文化研究科

該当なし

[注] 1 学内研究費の「その他」欄には、(表29)の(A)+(表30)の計、経常研究費、(表31)でいう学内共同研究費以外に該当するものがある

7 科学研究費の採択状況

(表33)

学部・研究科等	科 学 研 究 費								
	2006年度			2007年度			2008年度		
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100
総合福祉学部	5	1	20.0	6	2	33.3	6	1	16.7
看護学部	0	0	0.0	1	1	100.0	5	2	40.0
国際コミュニケーション学部	1	1	100.0	3	1	33.3	5	0	0.0
計	6	2	33.3	10	4	40.0	16	3	18.8

[注] 1 教員、助手が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入してください。

2 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないでください。

付表6 科学研究費補助金等

(1) 日本学術振興会科学研究費補助金配分内定一覧 2006(平成18)年度～

平成18年度

1) 総合福祉学部

(千円)

	研究種目	研究者	区分	課 題 内 容	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
1	基盤研究C	金沢 創	新規	錯視図形を用いた乳児の視覚発達に関する実験心理学的研究	1,500	1,100	0	0
2	若手研究B	神 信人	継続	リーダーへの権力委託による社会的ジレンマ解決の実証的研究	1,100	0	0	0

2) 国際コミュニケーション学部

(千円)

1	基盤研究C	山口 光治	継続	高齢者虐待防止のための予防プログラムの開発	1,600	-	-	-
2	若手研究B	藤森 雄介	新規	椎尾弁匡と「共生会」を手がかりとした戦前期の仏教社会福祉実践史に関する事例的研究	1,100	1,000	700	-

合計金額 5,300

対前年比 -

平成19年度

1) 総合福祉学部

(千円)

	研究種目	研究者	区分	課 題 内 容	平成19年 直接経費 /間接経費	平成20年 直接経費	平成21年 接経費	平成22年 接経費
1	基盤研究C	金沢 創	継続	錯視図形を用いた乳児の視覚発達に関する実験心理学的研究	1,100 /330	-	-	-
2	基盤研究C	松田 苑子	新規	水田稲作における労働と意識－生活時間長期時系列分析をとおし－	1,200 /360	400	300	0
3	若手研究B	青柳 涼子	新規	結婚と夫婦関係の変容過程－1950年代の夫婦調査結果の分析	500	100	-	-

2) 看護学部

1	萌芽研究	北山 幸枝	新規	虚血肢をもつ患者における皮膚血流改善のための看護ケアの検討	2,600	700	-	-
---	------	-------	----	-------------------------------	-------	-----	---	---

3) 国際コミュニケーション学部

(千円)

1	基盤研究C	山口 光治	新規	高齢者虐待防止のための高齢者へのエンパワメントを促進する予防プログラムの開発	1,800 /540	1,600	-	-
2	基盤研究C	加藤 尚裕	継続	自然環境に関わる幼児の遊びに見られる科学的萌芽に関する調査研究	900 /270	-	-	-
3	若手研究B	藤森 雄介	継続	椎尾弁匡と「共生会」を手がかりとした戦前期の仏教社会福祉実践史に関する事例的研究	1,000	700	-	-

	平成19年 直接経費 /間接経費
合計金額	9,100 /1,500

平成20年度

1) 総合福祉学部

(千円)

	研究種目	研究者	区分 継続	課 題 内 容	平成20年 直接経費 /間接経費	平成 21年 直接経費	平成 22年 直接経費	平成 23年 直接経費
1	基盤研究C	松田 苑子	継続	水田稲作における労働と意識—生活時間長期時系列分析をとおして—	400 /120	300	0	0
2	萌芽研究	神 信人	新規	相互依存度選択状況における適応的対人感情モデルの構築	1,100	1,000	1,000	0
3	若手研究B	青柳 涼子	継続	結婚と夫婦関係の変容過程—1950年代の夫婦調査結果の分析をとおして—	100 /30	0	0	0

2) 看護学部

(千円)

	研究種目	研究者	区分 継続	課 題 内 容	平成20年 直接経費 /間接経費	平成 21年 直接経費	平成 22年 直接経費	平成 23年 直接経費
1	基盤研究C	岡田 佳詠	新規	精神科看護師が実施する外来女性うつ病患者への集団認知行動療法プログラムの効果検証	700 /210	700	1,000	700
2	基盤研究C	小川 純子	継続	CAIによる、小児がんの子どもへの治療への主体性を高める疾患別援助プログラムの作成	1,800 /540	600	400	0
3	萌芽研究	北山 幸枝	継続	虚血肢をもつ患者における皮膚血流改善のための看護ケアの検討	700 +(1,510)	0	0	0
4	若手研究B	秋月 百合	新規	対人関係性の質が不妊女性の心理的適応に及ぼす影響—看護支援の質向上を目指して—	800 /240	1,000	1,300	0



## 3) 国際コミュニケーション学部

(千円)

	研究種目	研究者	区分 継続	課 題 内 容	平成20年 直接経費 / 間接経費	平成 21年 直接経費	平成 22年 直接経費	平成 23年 直接経費
1	基盤研究C	山口 光治	継続	高齢者虐待防止のための高齢者へのエンパワメントを促進する予防プログラムの開発	1,600 / 480	0	0	0
2	若手研究B	藤森 雄介	継続	椎尾弁匡と「共生会」を手がかりとした戦前期の仏教社会福祉実践史に関する事例的研究	700 / 210	0	0	0

	平成20年 直接経費 / 間接経費
合計金額	7.800 + (1,510) / 3.340

## 8 学外からの研究費

(表34)

学部・研究科等	専任 教員数	科学研究費補助金		その他の学外研究費		合計 (A+B)	備考
		科学研究費補 助金総額 (A)	うちオーバ ーヘッドの額	その他の学外研 究費総額 (B)	うちオーバ ーヘッドの額		
総合福祉学部	59	1,750,000	150,000	0	0	1,750,000	
看護学部	21	4,990,000	990,000	1,500,000	0	6,490,000	
国際コミュニケーション学部	53	2,300,000	690,000	0	0	2,300,000	
合 計	133	9,040,000	1,830,000	1,500,000	0	10,540,000	

[注] 1 教員が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入してください。

2 2008年度の実績をもとに作表してください。したがって「専任教員数」欄にも、2008年度の人数を記入してください。

3 「その他の学外研究費」には、科研費以外の政府もしくは政府関連法人からの研究助成金、民間の研究助成財団等からの研究助成金、奨学寄付金、受託研究費、共同研究費などが該当します。

4 本表における専任教員数は、2008年度の教員数であり、(表29)及び(表30)と一致します。

## 9 教員研究室

(表35)

学 部 研究科	室 数			総面積 (㎡)	1室当たりの平均面積 (㎡)		専任教員数 (B)	個室率 (%) (A/B*100)	教員1人当た りの平均面積 (㎡)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
総合福祉学部	72		72	1,517.2	21.1		59	100.0	21.1	
看護学部	21	1	22	532.4	20.9	93.5	21	100.0	25.4	
国際コミュニケーション学部	59	1	60	1,369.1	22.4	49.8	53	100.0	23.2	
計	152	2	154	3,418.7	21.5	71.7	133	100.0		

- [注] 1 「室数」「総面積」欄には、学部、大学院研究科等の保有する全ての教員研究室について記入してください。
- 2 「1室当たりの平均面積」は全ての教員研究室について、「教員1人当たりの平均面積」は学部、大学院研究科等の専任教員が実際に使用している教員研究室について算出してください。
- 3 「個室率」の算出にあたっては、個室数が専任教員数を上回る場合は、原則として100%と記入してください。
- 4 個室を持たない教員については、「備考」欄にその数を記入してください。